

令和 8 年市政報告会内容報告（各地区公民館での意見交換内容の概要）

地区名	日時	内容
教育文化会館	7 月 25 日(土) 14:00～	○今後、中学校も学校再編の予定があるのか 【教育部長】 現在、令和 6 年度から令和 15 年度の 10 ヶ年計画で小学校の再編計画は出していますが、中学校に関しては今のところ計画はございません。 【市長】 小学校の統合の目途がつくと子どもの数がさらに減少していく。学校を維持するためには 9 年間の義務教育学校のようなものを検討の必要があると考える。ただし、橋本市の場合は、中学校の立地場所が悪い（住宅開発をして作ったような）学校が多いので、その辺のバランスも大きな課題の 1 つだと考えています。 ○外国人について。外国籍の場合、橋本市の職員には採用できないのか。その根拠は法律なのか。また、外国人にはどのような権利義務（民生委員の選出など）があるのか 【総合政策部長】 外国人が市職員になれない根拠は、法律ではなくて政府見解となっています。日本国籍を取得した場合は採用は可能だと考えます。 外国人に対する権利義務については、例えば市が自由に決められるようなルールの中では、基本的人権もしっかり守った上で、平等の精神のもと、当然権利としては発生してくると思います。 ただ、選挙権のように法律等で制限がかかってくる部分はあります。 ○空家活用について、限界を感じている。結局、都市計画という根本的なところを見直しについてどう考えているか 【建設部長】 空家に関しては、市でもさまざまな取り組みをしています。一方、再築できない土地について、都市計画法とか建築基準法の方で何とかできないかということについては現状では難しいと問題であると考えます。都市計画法を超えての規制緩和などについては今後の課題かと思っています。 【市長】 空家の問題の 1 つに、残置物の処理があると考えています。空家は個人の資産であり、一定の条件を満たせば強制代執行などの対応もあるが、基本的には市の介入は難しいところです。今後制度のあり方などの検討は必要と考えます。 市が全ての空家を解決できるとは思っていない。ただ空家対策は早い

		に越したことはないので、空家バンクの登録物件については、できる限り対策していきたいと考えている。国とも色々相談しながら、新たな方法がないか国の方でも考えてもらうような働きかけを考えたい。 ○商品への付加価値などについて、具体的な商品を何か考えているのか。 また、農業について、新規就農者不足の課題をどう感じているか。また、空家へ空き巣などのように入る人達についての対策を市では何か考えているか 【経済推進部長】 最近では、市のメインの果樹である柿を、「紀の川柿」（樹上で渋柿を脱渋する特別な生産方法）として頑張って売り出していこうとしています。柿の加工について取り組んだことも過去にはありますが、うまくいっていない現状です。 また、開発者への支援についても、農業振興条例の補助金などを活用しながら支援していきたいと考えています。 新規就農者については、平成 27 年頃から人の確保に努めてきましたが、1 割程度しか適切な収益を上げられないという問題があります。そのため、2 年前から農家の後継ぎを作るための支援として最大 100 万円交付できる補助金を作るなど、後継者確保の取り組みを進めています。ただ、全国的な退職年齢 65 歳への引き上げなどもあり、思うように人材を確保できていない状況です。米については各地域の課題が異なりますので各地域に入って課題解決に向け取り組んでいきます。 【市長】 農業については 1 人でやっても限界があるため、法人化の必要性を感じている。法人化によりグループ作りができ、より効率的に農業をできるようなことも考えていくことが大事だと思う。 野菜では、「高野山麓精進野菜」として売り出す取り組みを進めている。ふるさと便はそろそろ違う手立ても考える必要があると思っており、今年、検討できたらと思います。 また、他人の家に許可なく侵入する場合などは、法律に抵触する問題なので警察等にお願いしていただくことになると思います。 ○高野口駅前はいつ頃に綺麗に開発されますか？賑やかになってほしいという希望があります 【経済推進部長】 高野口駅前については、現在協議会を立ち上げて、地元の団体とともに観光化について話し合っている状況です。また高野口駅舎を綺麗にしようという件も同時に話し合っています。大正時代の趣を感じる建物の古さが売りになっている駅前にある葛城館というカフェがある。それに雰囲気合わせた駅舎の改修なども予定しています。
--	--	--

		はっきりと期限を明示できないが、できる限り早めに対応したいと考えている。 ○よく他県などでは県を売り込む人がある。市や県ではそういう人がいないのでは。市にも、著名な出身者がいるので、それを利用して市を売り込む方法は考えられないか 【経済推進部長】 市を売り込む人について、尺八奏者の辻本好美さんに、去年から市の観光振興アドバイザーに就任していただいています。もう一人、自転車のインフルエンサーの方もいます。 他の著名人については、過去に接触した経緯はあるが、タイミングや事務所との関係などもあり、現状は難しい状況です。 【市長】 市では現在シティプロモーションに力を入れています。市の良いところを県外に発信できるように民間のコンサルタントにも入ってもらい、発信の仕方や考え方を職員に学んでもらうような取り組みもしている。芸能人に頼ることも大事ですが、市内の人や職員が自分のまちの良いところを県外に情報発信していくような取り組みが大事だと考えています。
--	--	--